

■ 卯野木 健 (看護部 ICU 看護師長) 2015 年 8 月 30 日～9 月 3 日

<派遣報告>

ベトナム、ホーチミン市にある中核病院であるチョーライ病院に、当院 ICU 看護師 2 名 (卯野木健、柴優子) が派遣されました。活動目的は主にチョーライ病院の集中治療室における看護の視察と指導です。チョーライ病院はベッドの数より患者の数が多く、ひとつのベッドを分け合って患者が寝ている姿がよく見かけられるのですが、さすがに ICU ではそのようなことはありません。ICU は、いわゆる Medical-Surgical ICU、心臓血管外科の ICU、脳神経外科の ICU と 3 つあります。ICU での管理が必要な患者の数が、用意されているスペースよりも多いため、ベッドの間隔は非常に狭く、また、カーテンで仕切られないのでプライバシーは全くありません。私たちは主に Medical-Surgical ICU で活動しましたが、患者層は特に特殊なことはなく敗血症、外傷、術後の患者で占められています。

ICU はいわゆる closed ICU で、集中治療医がすべての患者の指示を出していきます。人工呼吸器、モニターは割と新しいものがそろっており、CRRT や ECMO を行うこともできます。薬剤類は非常にシンプルで、日本でのそれと異なりシリンジポンプを 5 台、6 台とつけている患者はほとんどいません。最小限の薬物で管理している印象を受けました。

ICU では、看護師や集中治療医と様々なことに関して話し合いました。特に、チョーライ病院の方が気にされているのは、感染対策でした。シーツの管理 (滅菌した方がよいのか)、閉鎖式吸引システム (すでに導入されている) の是非、カフ上部吸引の頻度などに話題が集中しました。私たちから見ると、鎮静の評価やせん妄の評価がまだまだ不十分な印象がありました。今後は Richmond Agitation Sedation Scale (RASS) などの国際的にひろく使用されているスケールを使えるようにする必要があります。日本からは、柴が 30 分程度のせん妄、早期離床に関するプレゼンテーションを行いました。30 人以上の看護師が集まり、活発な意見交換をすることができました。まだまだ発展途中ですが、とてもやる気にあふれていて、さらによいものを目指していきたいという熱意が感じられました。



チョーライ病院看護スタッフと本院 ICU 看護師（柴、卯野木）

<活動内容と主な成果>

せん妄対策に関してプレゼンテーションを行った。妥当性のあるベトナム語のせん妄スクリーニングが存在せず、ベトナム語訳を行い、持参した。

また、鎮静の評価も古いものであり、より新しく、妥当性・信頼性の評価された指標を使用することを推奨した。